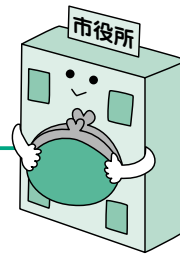


平成24年度

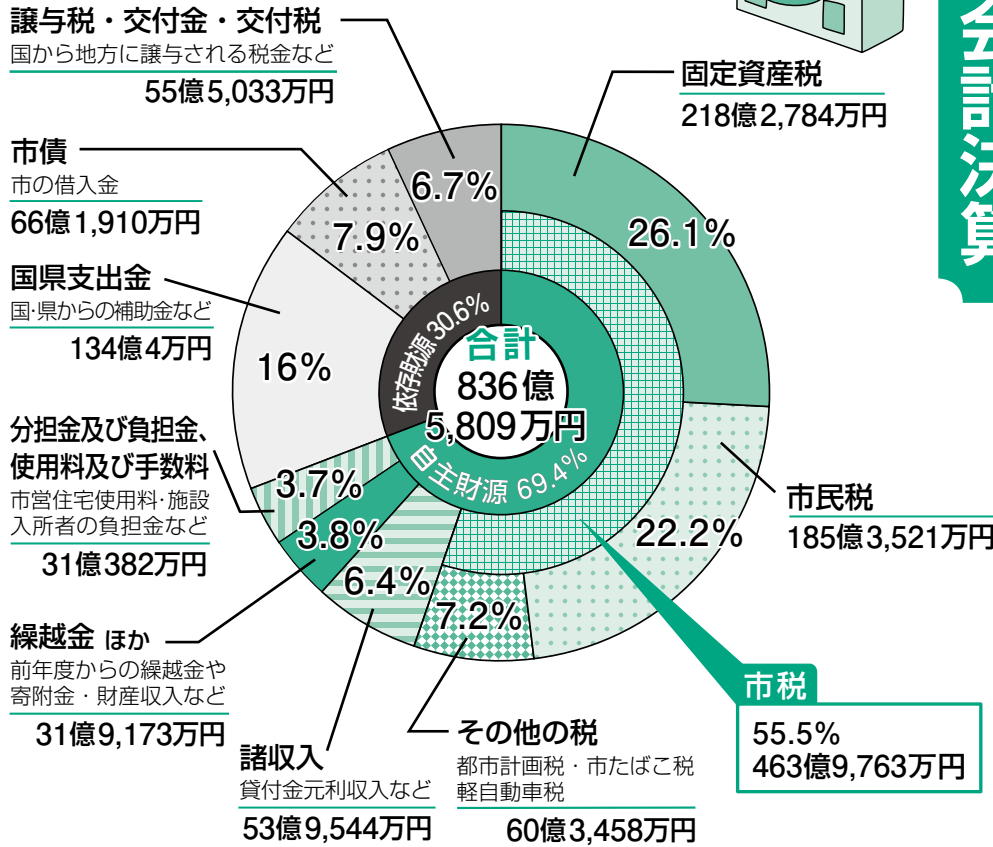
決算報告

皆さんの納めた税金がこの1年間どのように使われたのかを確かめてみましょう。

一般会計決算



歳入 836億5,809万円



※富士市の決算を月収41万円(年収500万円)の家計に置きかえています。

収入	
給料 (市税、地方交付税など)	25万 4,000円
パート代 (分担金、負担金、使用料、手数料など)	4万 3,000円
親からの援助 (国県支出金)	6万 6,000円
家や庭の大きな修繕のための金融機関からの借入 (市債)	3万 2,000円
敷地を駐車場として貸している賃料や株・預貯金の利子 (財産収入など)	1,000円
前の月の余剰金 (繰越金)	1万 4,000円
合計	41万 円

歳入の5割以上を占めるのは、市民の皆さんや企業に納めていただいた市税です。平成24年度の市税の決算額は約464億円で、前年度に比べて約1億円の減少となりました。これは、市民税が約11億円増加した一方、固定資産税・都市計画税が土地・家屋における評価替えに伴う評価額の減などにより、約12億円減少したことが主な要因に挙げられます。

歳入の5割は皆さんの市税

歳出は、目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が約3割を占め、最も多くなっています。民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。

歳出は民生費が1位



■用語の説明

歳入

年度内に入ってきたお金

歳出

年度内に使ったお金

自主財源

市が独自に徴収することができるお金。市民税、固定資産税、使用料や手数料など

依存財源

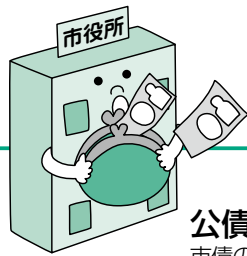
国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、地方消費税交付金、市債など

市債

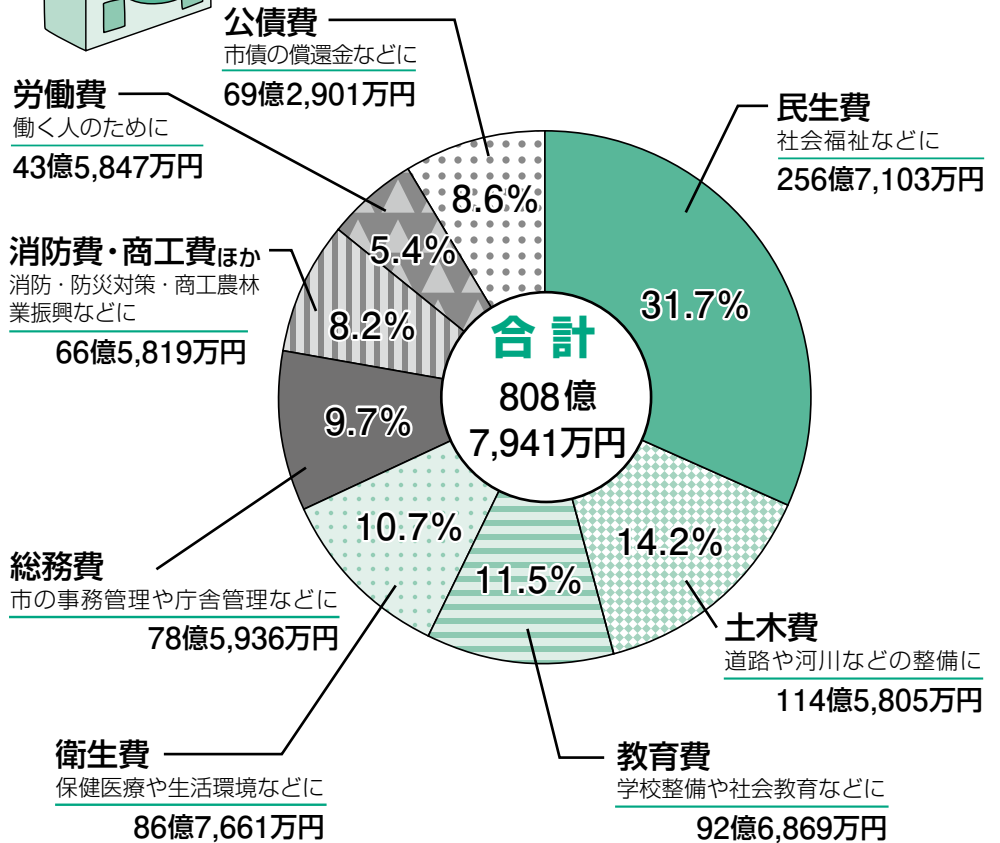
市が大きな建設事業などを行うために、国や銀行などから長期にわたって借りるお金

国県支出金

特定の事業の財源として、国や県から交付されるお金



歳出 808億7,941万円



特別会計決算

歳入 473億4,630万円

歳出 465億6,141万円

富士市には18の特別会計がありますが、表中では財産管理特別会計(全11会計)を省略しています。

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	260億9,919万円	256億2,639万円
後期高齢者医療事業	39億2,625万円	38億2,026万円
介護保険事業	152億6,586万円	152億1,008万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	8億8,429万円	8億7,465万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	7億5,530万円	7億5,272万円
駐車場事業	7,763万円	7,334万円
公共用地先行取得事業	1億10万円	1億10万円

企業会計決算

水道事業

事業収益合計
27億7,953万円
事業費用合計
26億4,309万円
純利益
1億3,644万円

公共下水道事業

事業収益合計
53億671万円
事業費用合計
52億6,783万円
純利益
3,888万円

病院事業

事業収益合計
133億1,781万円
事業費用合計
132億817万円
純利益
1億964万円

1か月の家計簿に置きかえると

支出	
食費 (市職員の人件費)	6万8,000円
医療費・介護サービス利用料 (医療費・生活保護などの扶助費)	6万8,000円
ローン返済 (市債の返済である公債費)	3万4,000円
家や庭の大きな修繕、家財購入 (福祉施設・教育施設・道路・公園などの整備、建物の耐震化など投資的な経費)	6万5,000円
学費・光熱費・日用品 (施設管理などの物件費)	8万7,000円
子どもへの仕送り (企業会計への繰出金など)	7万4,000円
貯金 (積立金)	1,000円
合計	39万7,000円
余剰金	1万3,000円